



EPA介護福祉士候補者の教育と課題

2月6日（月）

公益社団法人 国際厚生事業団（JICWELS）

専務理事 角田 隆



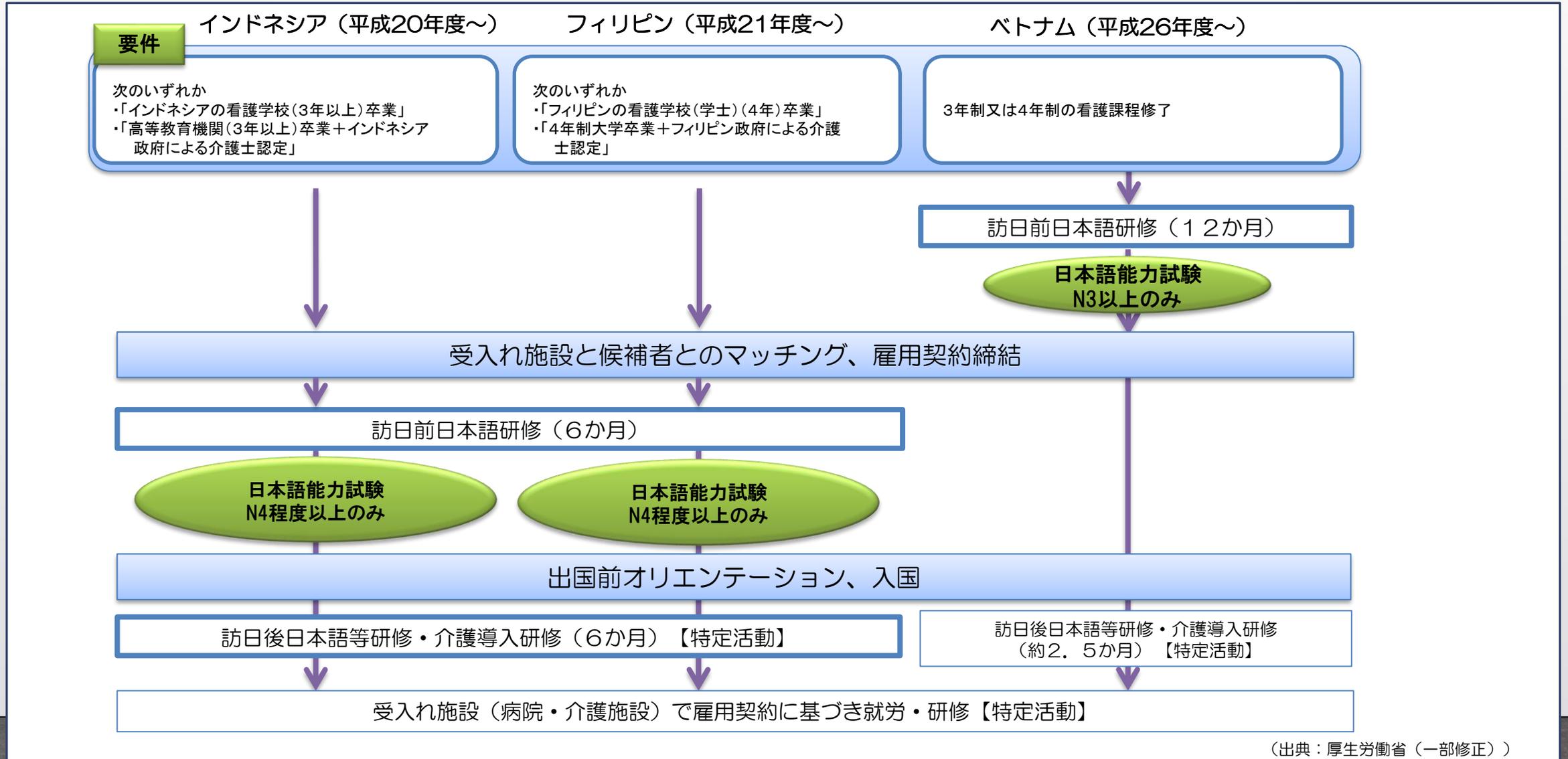
JICWELS

EPAに基づく外国人看護師・介護福祉士候補者（以下、EPA候補者）の受入れは、**日本の看護・介護分野の労働力不足への対応ではなく、**

- 二国間の経済活動の連携の強化の観点から、EPAに基づき、**公的な枠組で特例的に行うもの**
- EPA候補者は就労・研修をしながら**看護師・介護福祉士資格の国家資格を取得し、引き続き日本に滞在することを目的としたもの。**
- 国家資格取得者は、**両国の保健医療・福祉の発展に貢献**するよう努める。

受入れ施設が国家試験の合格を目標とした適切な研修を実施することが重要。

EPA介護福祉士候補者の要件と来日までの流れ



受入れ機関・施設の要件

- ・ 介護福祉士養成施設における実習施設と同等の体制※が整備されていること。

※実習指導者の要件を満たす者を研修責任者として置いており、人員配置について介護保険法その他関係法令に基づく基準を満たしていること。

- ・ 介護職員の員数が、法令に基づく職員等の配置の基準を満たすこと。
- ・ 常勤介護職員の4割以上が、介護福祉士の資格を有する職員であること。

研修の要件

- ・ 研修内容は、介護福祉士試験の受験に配慮した適切なものとし、これを実施するための介護研修計画が作成されていること。
- ・ 研修を統括する**研修責任者**、専門的な知識・技術に関する学習の支援、日本語学習の支援、生活支援等を行う**研修支援者**が配置され、介護研修計画を実施するために必要な体制が整備されていること。
- ・ **研修責任者**は、原則※として、5年以上介護業務に従事した経験があつて、介護福祉士の資格を有する者とする。こと。
※介護福祉士実習指導者講習会を修了した介護福祉士も含まれる。

- ・受入れ機関がJICWELSへの求人登録申請時に作成する「研修計画書」等に沿って研修を実施。
- ・研修の実施状況は、毎年1月にJICWELSを通して厚生労働省に報告。

1週間あたりの国家試験対策の学習時間

2021年度の巡回訪問において、受入れ施設では8.0時間／週、自宅で7.2時間／週、計15.2時間／週を国家試験対策の学習に充てていることを確認。2015～20年度はおおむね13時間程度で推移。

（単位：時間／週）

	2021年度	2020年度	2019年度	2017年度	2015年度	2013年度
受入れ施設	8.0	6.9	6.6	6.5	6.9	*8.9
自宅	7.2	6.8	7.1	6.6	6.2	8.1
合計	15.2	13.7	13.7	13.1	13.1	17.0

※2013年度の受入れ施設の学習時間は推計値。

（出典：JICWELS 巡回訪問結果報告書）

国家試験対策の指導者・ツール

国家試験対策の指導者・ツールでは、国際厚生事業団が行う集合研修・通信添削が高い活用率を占めるが、これを除くと2021年度では施設職員の指導が63.9%、日本語専門家・国家試験対策の専門家の指導がそれぞれ33.5%、専門学校への通学が8.3%、外部セミナーの参加が13.7%となっている。

	2021年度	2020年度	2019年度	2017年度	2015年度	2013年度
集合研修	65.3%	60.0%	83.4%	83.9%	71.0%	64.0%
通信添削	80.5%	72.1%	78.1%	76.4%	65.4%	55.6%
施設職員による指導	63.9%	58.4%	66.6%	69.4%	53.8%	58.1%
国試対策専門家による指導	33.5%	30.6%	37.5%	31.0%	23.4%	20.7%
日本語専門家による指導	33.5%	40.1%	50.0%	48.4%	39.5%	26.2%
養成校への通学	8.3%	10.3%	11.4%	7.9%	5.1%	6.6%
外部セミナーの受講	13.7%	11.4%	17.4%	18.4%		

(出典：JICWELS 巡回訪問結果報告書)



取り組みの様子

「候補者は真面目に学習に取り組んでいる」と評価する受入れ施設の割合は60%台を推移していたが、2021年度は74.2%であった。
(①「真面目に学習している」、②「普通」、③「やる気が感じられない」の3択)

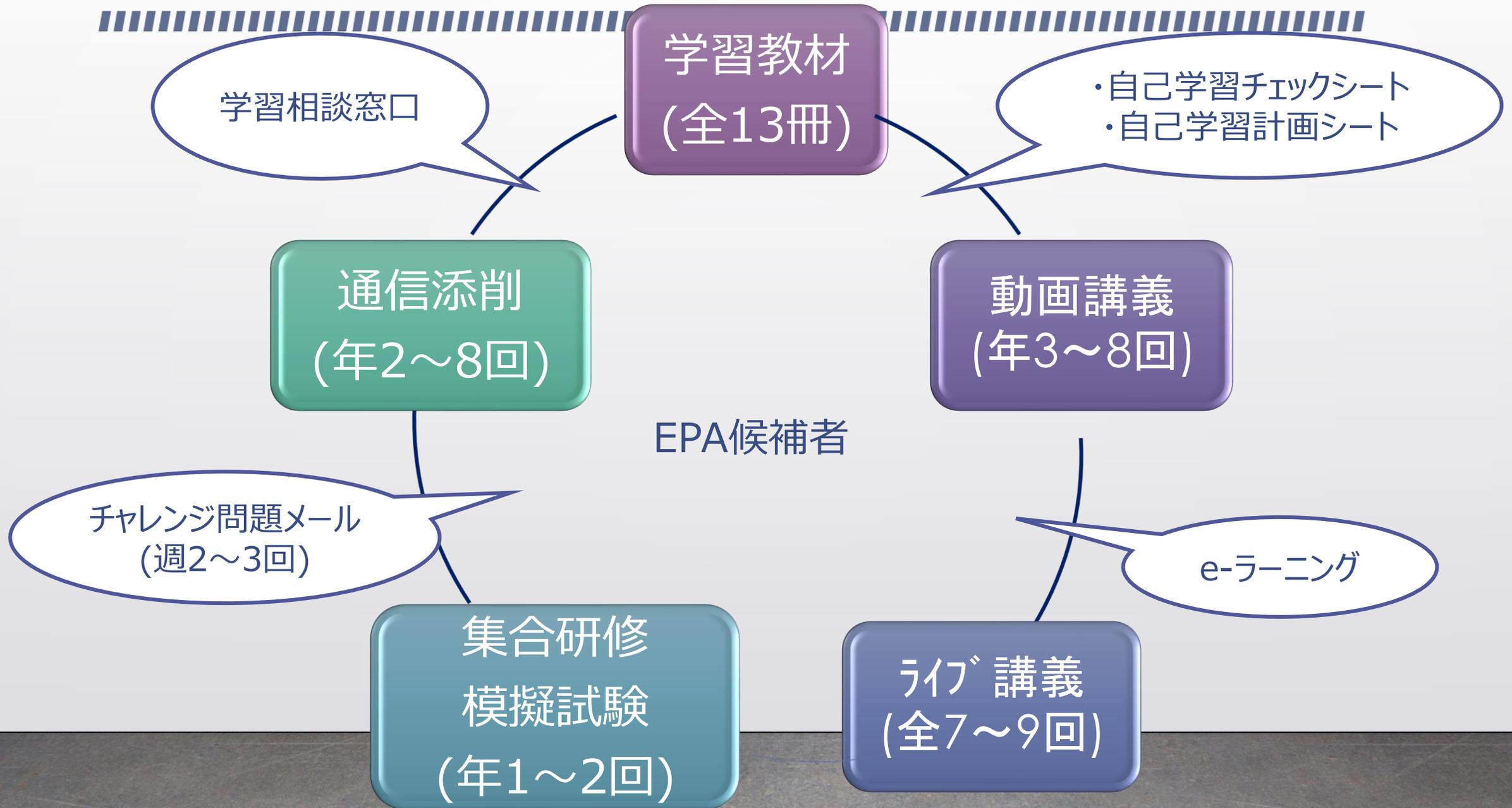
2021年度	2020年度	2019年度	2017年度	2015年度	2013年度
74.2%	67.4%	64.6%	62.1%	60.2%	57.9%

(出典：JICWELS 巡回訪問結果報告書)

学習年度毎の学習目標

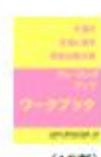
学習年度	学習目標
1 年目	<p>「介護分野の専門用語の習得及び、次年度への円滑な移行」 2 年目以降の国家試験対策学習に対応できる介護の日本語力（漢字語彙、読解）及び介護の知識・技術の習得</p>
2 年目	<p>「国家試験の基礎知識と傾向を把握し、自己学習を徹底する」 3 年目の受験対策学習に対応できる国家試験の基礎知識の習得（国試の傾向、出題科目の全体像等）、 各種学習支援ツールを活用した自己学習能力の定着</p>
3 年以上	<p>「知識の整理と弱点分野の反復学習を促し、国家試験合格を目指す」 国試合格を目指した本格的な受験対策学習 （得意・苦手分野学習、過去問題、模擬試験、予想問題等）</p>

介護学習支援事業の全体イメージ



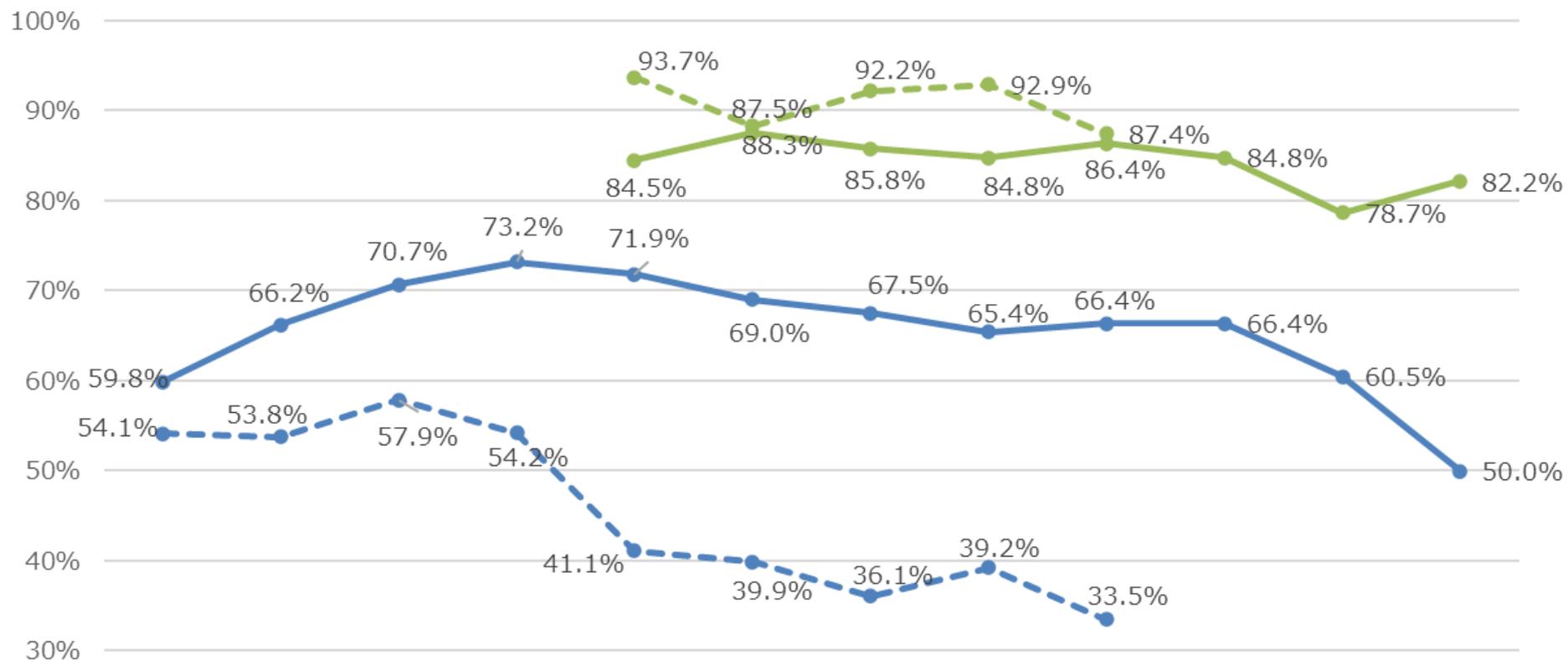
EPA介護福祉士候補者対象学習支援事業 使用教材

対象	教材名 及び 概要
1	 <p>「介護・介護の言葉と漢字 ワークブック やさしい漢字とカタカナ語」(5か国語対応)</p> <p>基本漢字300字と介護現場で使う基本漢字からなる言葉の練習 外国人が苦手とするカタカナ語の練習。 CDつきで、漢字仮名交じり文のディクテーション練習ができる。 「介護の言葉と漢字 ワークブック」の前段階のもので、 英語、インドネシア語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語の語彙訳付。</p>
2	 <p>「介護の言葉と漢字 ハンドブック」 インドネシア語版</p> <p>介護現場で多く使われる429漢字、2200語彙を掲載。 4種類の索引から漢字、語彙の検索ができ、辞書としても使える。</p>
	 <p>「介護の言葉と漢字 ハンドブック」 英語版</p> <p>介護現場で多く使われる429漢字、2200語彙を掲載。 4種類の索引から漢字、語彙の検索ができ、辞書としても使える。</p>
	 <p>「介護の言葉と漢字 ハンドブック」 ベトナム語版</p> <p>介護現場で多く使われる429漢字、2200語彙を掲載。 4種類の索引から漢字、語彙の検索ができ、辞書としても使える。</p>
	 <p>「介護の言葉と漢字 ワークブック」</p> <p>「介護の言葉と漢字 ハンドブック」準拠のワークブック。 漢字と言葉の練習、確認問題、応用問題、総合問題を掲載。</p>
3	 <p>「介護の言葉と漢字 ワークブック 言葉の使い方ドリル」</p> <p>受入れ施設の研修担当者研修で要望の高かった言葉の 使い方のドリル。 「介護の言葉と漢字 ワークブック」の10漢字ごとに1ページの 練習問題になっている。</p>
4	 <p>「介護の言葉と漢字 国家試験対策 段階別 事例問題読解」</p> <p>介護福祉士国家試験で出題された「事例問題」を初級・中級・上級の レベルに書き直し、読解練習できるように問題を付けた。 音読速読練習にも使え、介護専門の知識を付けることにも役立つ。</p>

対象	教材名 及び 概要
6	 <p>「介護の言葉と漢字 国家試験対策 ウォーミングアップ」</p> <p>介護福祉士国家試験頻出の「介護の言葉と漢字、ハンドブック」で 扱っていない漢字と語彙、文法問題の捉え方、難しい漢字語彙の 捉え方など、国家試験対策の学習に取り組むための準備の ハンドブック。</p>
7	 <p>「介護の言葉と漢字 国家試験対策 ウォーミングアップワークブック」</p> <p>「ウォーミングアップ」に準拠したワークブック。 ウォーミングアップに掲載されている漢字・語彙習得のための練習、練習問題に加えて 読み物、総合問題などで、国家試験対策学習への日本語力を強化する。</p>
8	 <p>「始めよう！外国人のための介護福祉士国家試験対策」</p> <p>外国人である候補者にとって、日本の社会制度は理解が難しい。 本書は次に続く国家試験学習に円滑に移行できるように、制度を中心に 日本の社会事情などをストーリー化し、イメージできるようにした。 言葉のリスト、日本語の問題、介護の内容の問題を各章末に掲載し、学習内容の理解の 確認ができるようになっている。全編ふりがな付き。</p>

対象	教材名 及び 概要
9	 <p>「外国人のための介護福祉士国家試験対策 新カリキュラムⅠ「人間と社会」「医療的ケア」</p> <p>領域「人間と社会」「医療的ケア」で習得すべき専門知識を候補者にも 理解できる易しい日本語、図解、漢字問題で学習する。 全編ふりがな付き。</p>
10	 <p>「外国人のための介護福祉士国家試験対策 新カリキュラムⅡ「介護」</p> <p>領域「介護」で習得すべき専門知識を候補者にも 理解できる易しい日本語、図解、語彙説明で学習する。 全編ふりがな付き。</p>
11	 <p>「外国人のための介護福祉士国家試験対策 新カリキュラムⅢ ところとからのしくみ」</p> <p>領域「ところとからのしくみ」で習得すべき専門知識を 候補者にも理解できる易しい日本語、図解、語彙説明で学習する。 全編ふりがな付き。</p>
12	 <p>「外国人のための介護福祉士国家試験対策 新カリキュラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ問題集」</p> <p>「外国人のための介護福祉士国家試験対策新カリキュラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ」全3冊の 学習項目に対応する問題集。 全編ふりがな付き。</p>
13	 <p>「外国人のための介護福祉士国家試験対策 新カリキュラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ これだけは覚えよう！ワークシート」</p> <p>国家試験問題に正答するために必須の基礎知識をしっかりと定着させるためのワークシート。 何度も繰り返し学習できるように、一枚一枚のシートにし、容易にコピーができるように している。 全編ふりがな付き。</p>

日本語統一試験結果と国家試験結果の推移



	2010年 度入国	2011年 度入国	2012年 度入国	2013年 度入国	2014年 度入国	2015年 度入国	2016年 度入国	2017年 度入国	2018年 度入国	2019年 度入国	2020年 度入国	2021年 度入国
● 試験 (尼比)	59.8%	66.2%	70.7%	73.2%	71.9%	69.0%	67.5%	65.4%	66.4%	66.4%	60.5%	50.0%
● 試験 (越)					84.5%	87.5%	85.8%	84.8%	86.4%	84.8%	78.7%	82.2%
● 国試 (尼比)	54.1%	53.8%	57.9%	54.2%	41.1%	39.9%	36.1%	39.2%	33.5%			
● 国試 (越)					93.7%	88.3%	92.2%	92.9%	87.4%			

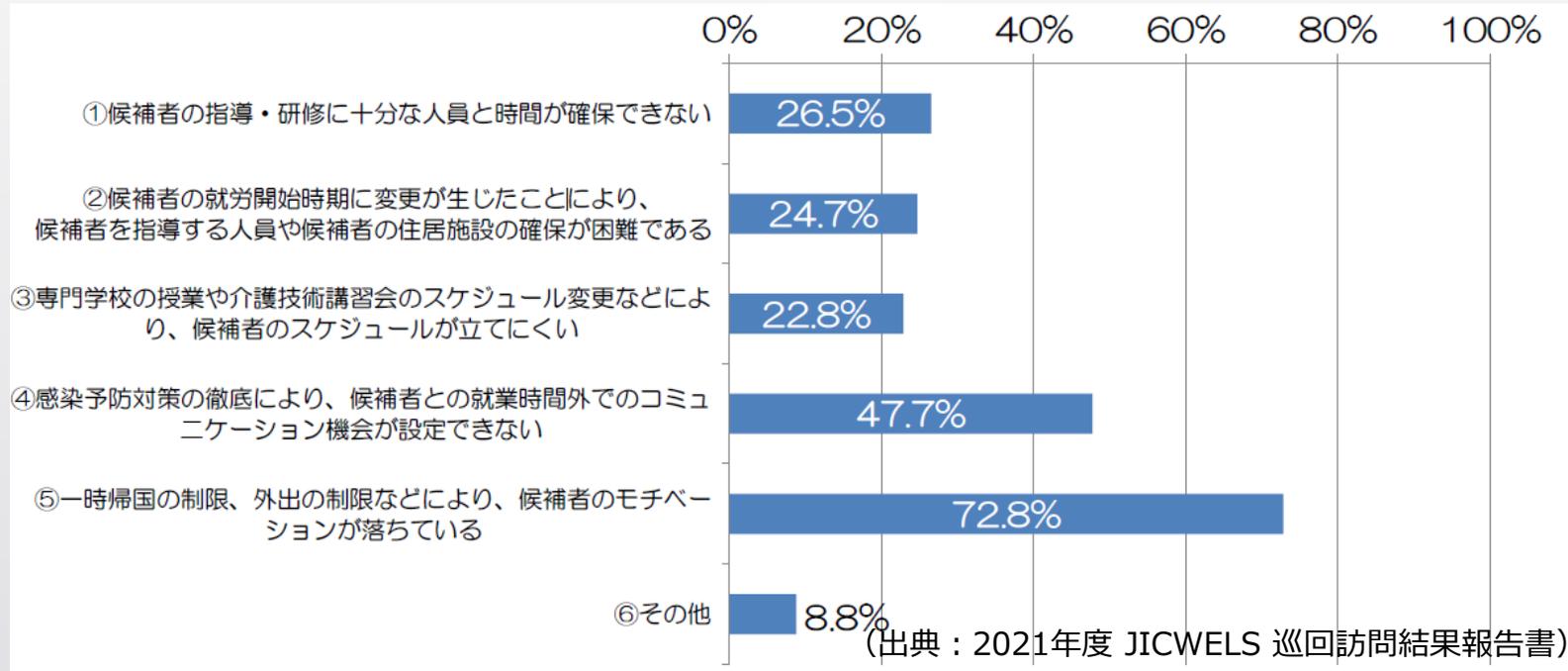
当事業団では、最近のEPA介護福祉士候補者の国家試験合格率低下の要因を以下の通り考えている。

- ① 受入れ施設の多忙化、候補者の戦力化
- ② 候補者の日本語力の低下
- ③ 国家試験問題文の長文化
- ④ 学習支援事業の希薄化
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症の影響



⑤ 新型コロナウイルス感染症の影響

・「新型コロナウイルス感染症がEPA候補者の受入れに影響した」と回答した受入れ施設（全体の66.0%）の7割以上が「一時帰国や外出の制限により候補者のモチベーションが落ちた」と回答。

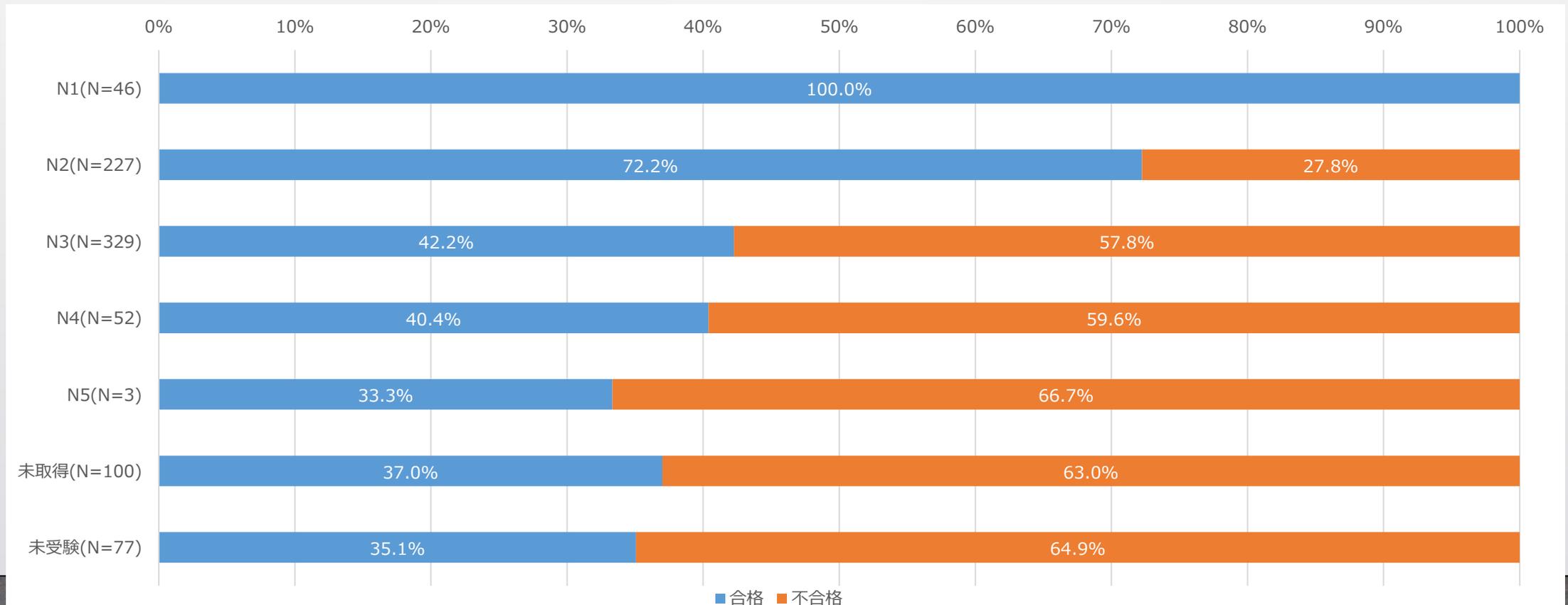


- ・学習支援事業のオンライン化など、事業内容の見直しが必要となり、試行錯誤となった。
- ・国家試験直前期に受入れ施設でクラスターが発生し、計画通りに学習が進まなかった例もある。

JLPT N2以上取得者の国家試験合格率が高い。

JLPT取得級別 国家試験結果

対象：第34回介護福祉士国家試験を受験したEPA介護福祉士候補者（回答内容は候補者の自己申告による）。



受入れ施設の研修実施状況

JICWELSが2020（令和2）年度に実施した各受入れ施設の巡回訪問報告書から、

A 勤務時間内の研修時間の一週間平均 および B 研修内容 を

- ①受入れ施設全体
- ②国家試験合格率が**高い**施設
- ③国家試験合格率が**低い**施設 で比較

国家試験合格率が**高い**施設・**低い**施設の選定基準

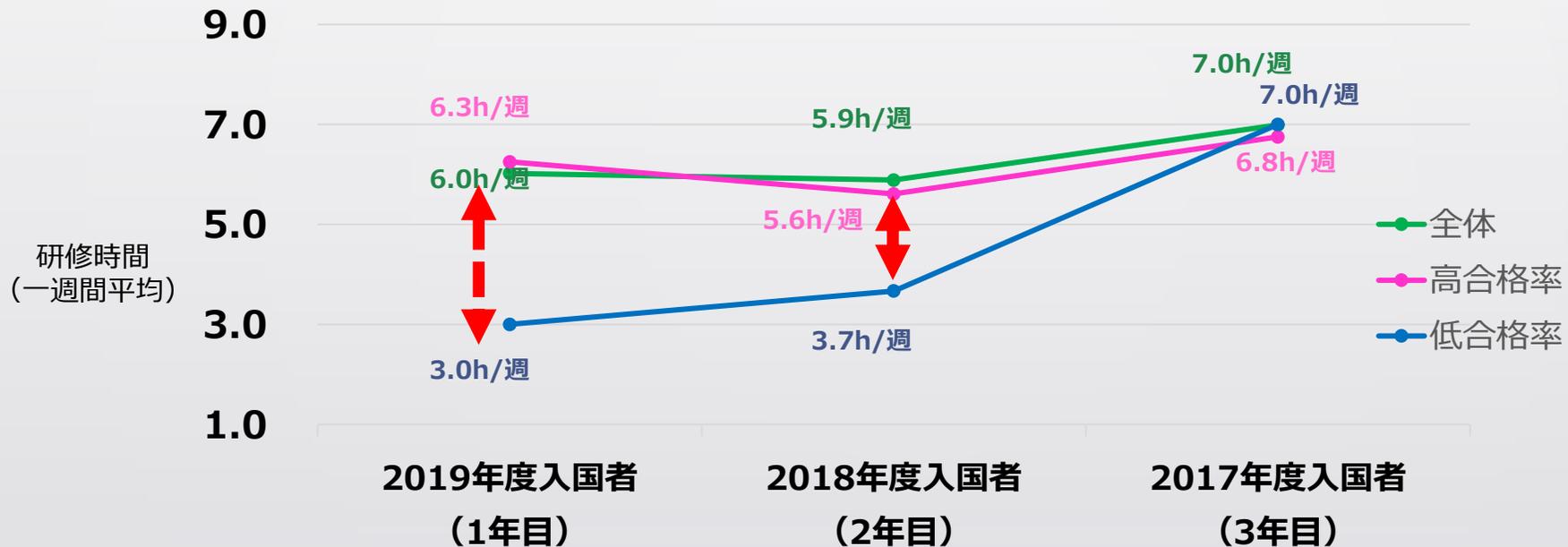
2018～2020年度の介護福祉士国家試験において；

- ・受験者の総数が10名以上（重複を除く）であり、かつ合格率が50%以上の施設（14施設）を合格率が**高い**施設とする。
- ・受験者の総数が5名以上（重複を除く）であり、かつ合格率が0%の施設（10施設）を合格率が**低い**施設とする。



勤務時間内の研修時間（介護福祉士候補者）

- ・合格率の高い施設と受入れ施設全体の研修時間の間に差はない。
- ・合格率の低い施設は1年目、2年目の研修時間が少ない。



⇒ 国家試験受験年度だけ学習時間を増やすのではなく、日々の積み重ねが重要！

国家試験合格率が**高い**施設の研修内容の特徴

- 受入れ施設の研修担当者が直接候補者の指導を行っている。
- 受入れ施設の研修担当者が候補者と共に学習計画や学習目標を立て、苦手分野の把握や克服、モチベーション維持に努めている
- 研修担当者が対応できない部分は外部講師や教育機関を活用している。
(外部講師・教育機関との情報共有も密に行う)

国家試験合格率が**低い**施設の研修内容の特徴

- 候補者の自習に任せている。



① 候補者の日本語能力低下への対応

⇒ 学習1年目から、介護の学習に繋がる日本語学習プログラムを改善。学習2年目以降も日本語学習を取り入れる。

② 介護導入研修との連携強化

⇒ 候補者が就労開始前に学習した介護導入研修の内容を学習1年目に再度学習することにより、国家試験の得点率が低い「生活支援技術」の理解に繋げる。

③ 受入れ施設担当者へのアプローチ

⇒ 候補者数の増加に伴い、受入れ施設の研修担当者による指導体制・モチベーション管理が一層重要になっていることから、受入れ施設の担当者向けの説明会を実施。

④ 日常の介護業務と国家試験に向けた学習の関連付け

⇒ 「介護施設での就労」を学習の機会ととらえ、「生活支援技術」等、日常業務と関連付けた学習を受入れ施設の研修担当者をお願い。

⑤ 候補者の国家資格取得に向けた動機付け

⇒ 導入研修や合格報告会等の機会に、介護福祉士国家資格取得後、介護の分野でキャリアアップしている先輩合格者の事例を紹介。



1. 候補者は受入れ施設と自宅で合計週14時間程度、国家試験に備えた学習を行っている。
2. 受入れ施設の関与・尽力が不可欠である。
3. 候補者の日本語能力が合格のカギ。